

世界初!

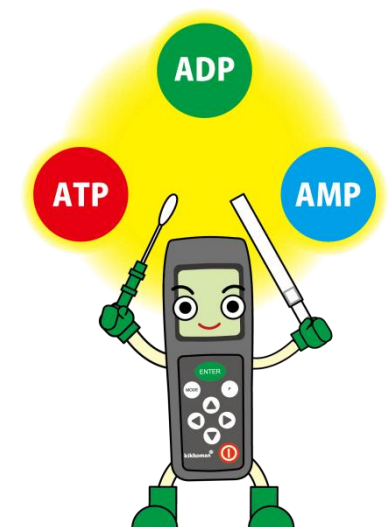
ATP+ADP+AMPふき取り検査(A3法)

～基本的な使用方法と注意点～



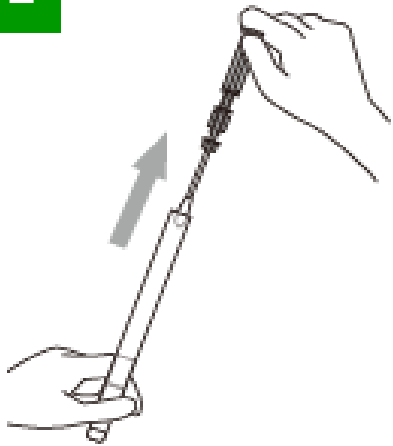
1. 使用方法について ～基本的なふき取り方～

2. 注意点について ～正しく測定するために～

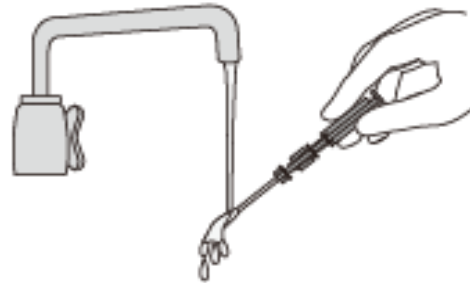


基本的な使用方法

1

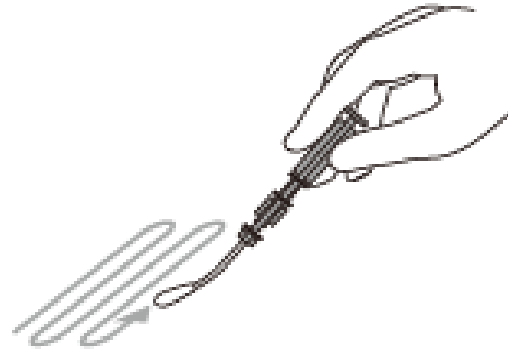


2



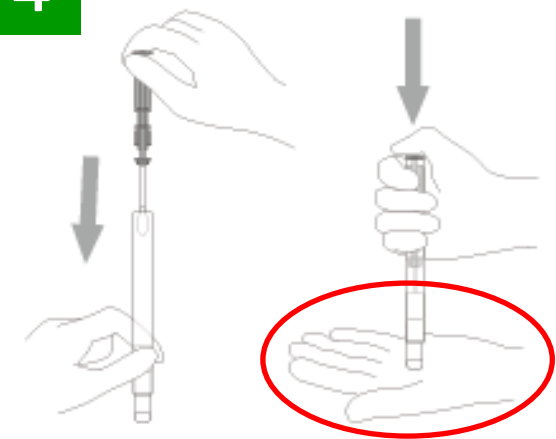
※生理食塩水は使用しない

3



※綿棒がしなる程度の強さで
しっかりとふき取る

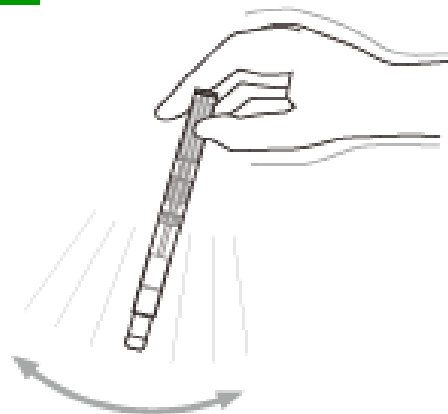
4



5



6



※試薬の溶け残りがないように

7



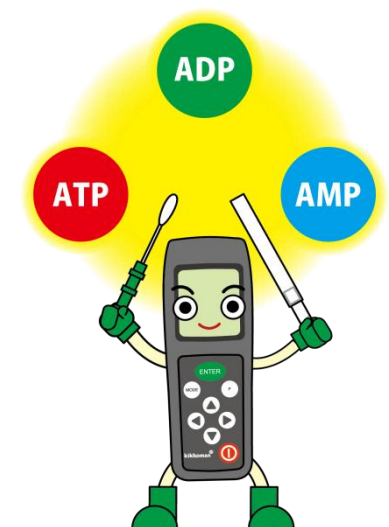
8



※測定中はルミテスターを立てる

1. 使用方法について ～基本的なふき取り方～

2. 注意点について ～正しく測定するために～



保管時・使用時のルールは厳守

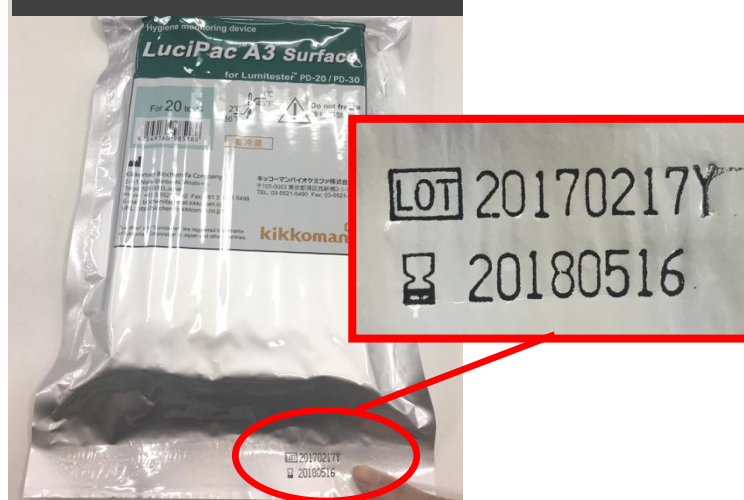
保管：冷蔵庫

2 ~ 8 °C



品質保持期限

製造後15ヶ月迄



使用：室温

20 ~ 35 °C



未開封常温放置の使用期間

25°C以下 : 14日間

30°C以下 : 5日間

室温に戻してから使用します
(約20分間で室温に戻ります)

開封後は2週間以内
にご使用ください

夏場はルシパックの取り扱いに注意が必要

車で運搬される際には保冷剤をご利用ください



ルミテスターは冷蔵しないでください

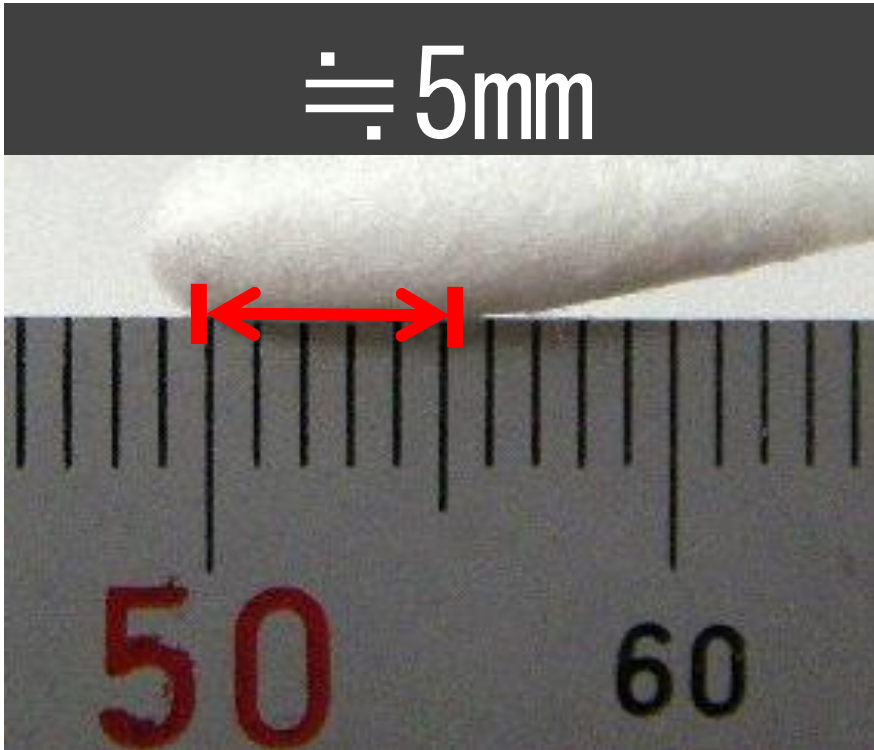


ルミテスターが結露による故障の可能性有

綿棒の角度と幅

ふき取り幅

≒ 5mm

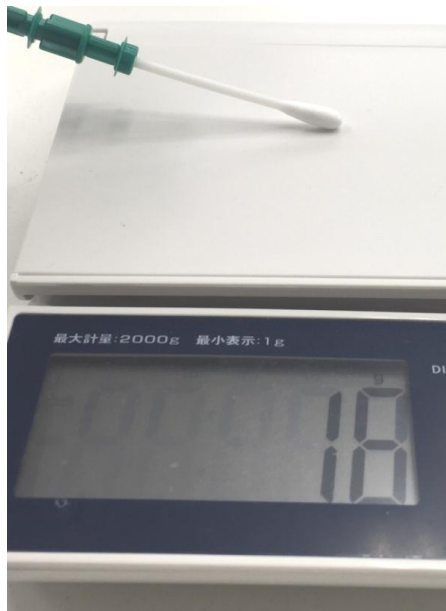


ふき取り角度

10~20度

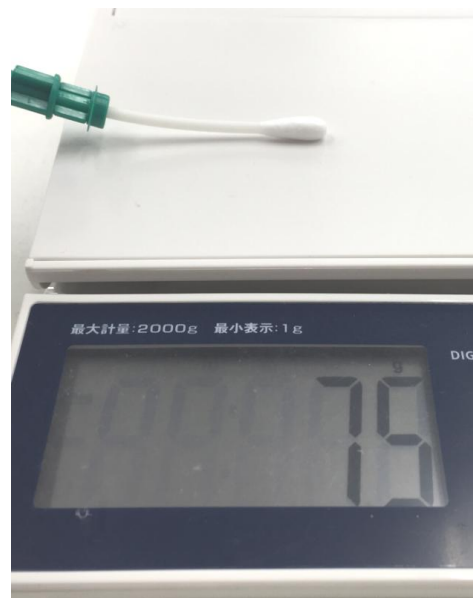
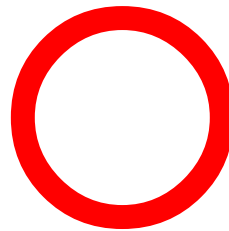


強さ（綿棒が軽くしなる程度に）



弱すぎる

先端だけでふき取らないように



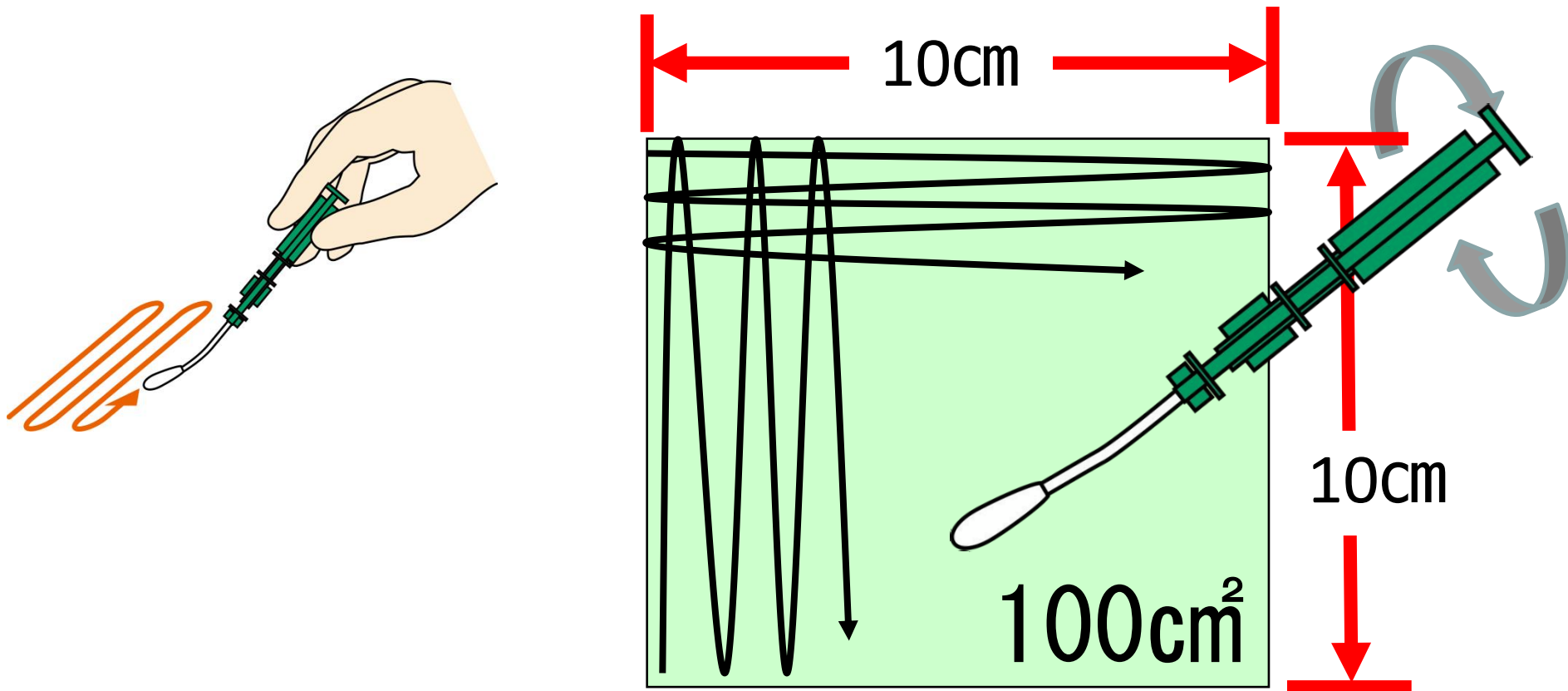
OK

綿球表面全体が 検査箇所にし
っかり付着するように



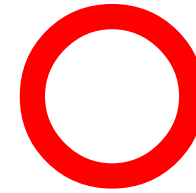
強すぎる

回数（縦横10往復、隙間なくふき取る）



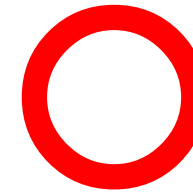
綿棒は回転させながら、30秒程度の時間をかけてふき取る

しっかり溶かす（発光試薬は溶け残りがないように）



発光試薬を溶かし終えたらすぐに測定へ

測定中はルミテスターを立てる



測定中ルミテスターを横にすると正しく測定できません

試薬の反応を阻害する物質

食塩		エタノール		次亜塩素酸ナトリウム		オスバン (塩化ベンザルコニウム10%)	
濃度 (%)	発光率 (%)	濃度 (%)	発光率 (%)	有効塩素 濃度(ppm)	発光率 (%)	濃度 (%)	発光率 (%)
0	100.0	0	100.0	0	100.0	0	100.0
0.1	90.2	1.0	95.7	20	103.4	0.01	96.7
0.2	77.7	2.0	99.6	50	99.8	0.05	95.6
0.5	62.3	5.0	89.2	100	96.9	0.1	98.2
1.0	43.3	10.0	80.1	200	91.9	0.5	76.7
2.0	27.4	20.0	65.0	500	73.2	1.0	64.6
-	-	50.0	32.4	1000	38.0	-	-

※阻害物質0%の時に発光率100%として測定
(綿球にAMPを添加した各液0.1ml滴下時の発光率)

低値になってしまう原因として考えられること

- ルシパック（試薬）の反応を阻害する物質がある。
- ルミテスターを横にして測定した場合。
- ルシパックの発光試薬が溶け残っている。
または、抽出試薬を落とし切れていない。
- ルシパックを20℃未満で測定した場合。
（温度が低ければ低いほど低値になります。）
- ふき取りがしっかりされていない。

以上

